

## 支援機器グループ教室

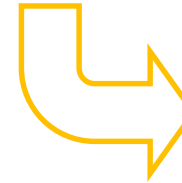
グループ指導で言語聴覚士として大切にしていること  
(学校現場でも活用できるアプリの紹介)



平谷こども発達クリニック  
言語聴覚士 堀内萌

## クリニックにおけるディスレクシア児童の指導

- ①言語個別指導の場でのDD(ディスレクシア)支援  
 > 語彙の拡大・音と絵の意味づけ・**支援機器の活用**
- ②支援機器グループ
- ③学習支援室



### 【本日の流れ】

- ◎支援機器グループについて
- ◎実際の取り組み
  - > iPad・メールを活用する目的
  - > 指導の目的
- ◎今後の課題

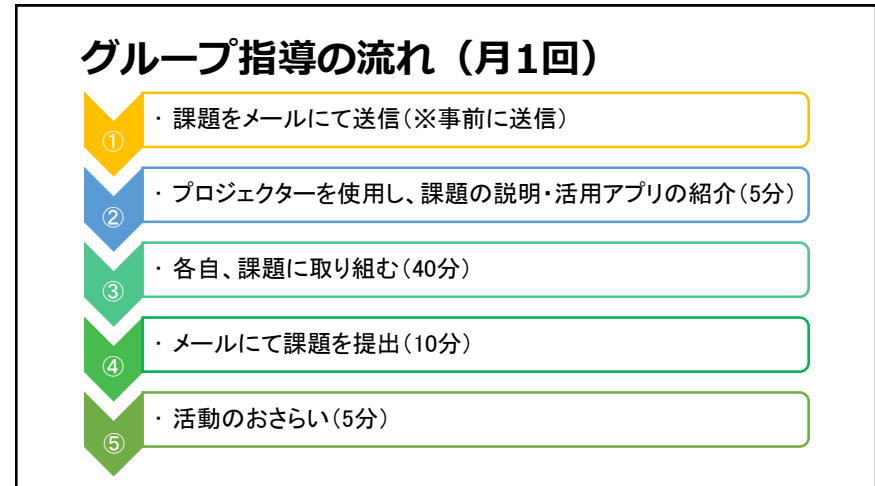
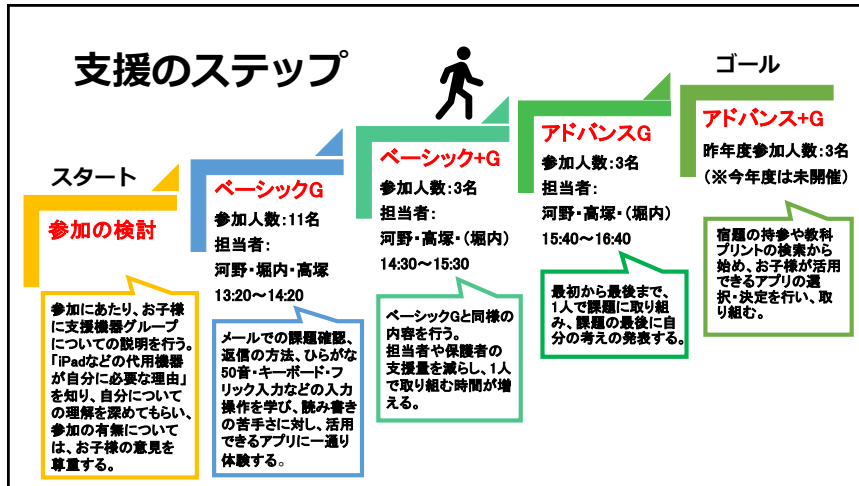
## 支援機器グループ

### 【目的】

- ◎読み書きの苦手さに対し、iPadの活用方法を学ぶ
- ◎他児との交流を図る

## 概要

- > 開催日  
月1回(土曜日)
- > 対象
  - ①当クリニックにて学習障害(ディスレクシア)と診断を受けている
  - ②支援機器を学習の補助として取り入れたいと思っている
  - ③グループ活動へ参加することができる
 上記の①～③が当てはまる小学校3年生～中学校3年生のお子様
- > 担当者  
 河野 俊寛(言語聴覚士): 金沢星稜大学人間科学部教授  
 堀内 萌(言語聴覚士): 平谷こども発達クリニック  
 高塚 真緒(言語聴覚士): 平谷こども発達クリニック



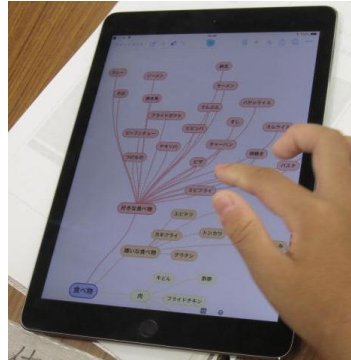
＜ベーシックコース・シラバス＞	
1 (5月)	音声読み上げの方法を知る (設定含む) インターネットを使った検索方法 (キーワード検索) を知る 各自に合った入力方法を探る メールの書き方を知る
2 (6月)	後で使える写真撮影の方法を知る 写真の編集機能について知る 写真のアルバム管理の方法を知る
3 (7月)	マインドマップアプリ (simplemind) の使い方を知る
4 (8月)	カレンダーに予定を入力する方法を知る フィッシュボーン図を使った予定管理について知る
5 (9月)	紙のプリントを、iPadに写真で取り込んで解読する方法を知る (UPADの使い方)
6 (10月)	紙のプリントをiPadでOCRで取り込み内容を理解する方法を知る (よむべえの使い方)
7 (11月)	デジタル図書のダウンロード、読み方を知る (iBooksの使い方) 自分に合ったフォントの種類・大きさ、背景色等を探る
8 (12月)	復習 (写真+UPAD)
9 (1月)	復習 (iBooks)
10 (2月)	復習 (フィッシュボーン図)
11 (3月)	復習 (UPAD)
12 (4月)	復習 (よむべえ)

### 実際の取り組み (ベーシックグループ)

- ①メールにて課題を確認
- ②プロジェクターを用いて説明

## 実際の取り組み (simple mindの活用)

③アプリを活用し、課題に取り組む

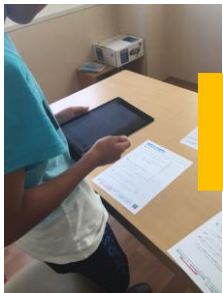


## 実際の取り組み

④メールにて課題を提出



## 実際の取り組み (アドバンス+グループ)



①撮影



②回答

24 場合をあげて調べて

1 1箱3個入りのケーキと4個入りのケーキを売っています。ケーキを30個買います。それぞれ何箱ずつ買えばよいですか。

4個入りの 箱の数	1	2	3	4	5	6	7
ケーキの個	4	8	12	16	20	24	28
残りのケーキの個	26	22	18	14	10	6	2
3個入りの箱の数	x	x	6	x	x	2	x

▶3個入り 6箱で、4個入り 6箱

▶3個入り 2箱で、4個入り 2箱

2 まわりの長さが18cmの長方形をつくりまします。縦の長さを1cm、2cm、……と変えていくとき、長方形の面積がもっとも大きくなるようにするには、縦の長さ、横の長さをそれぞれ何cmにすればよいですか。

縦(cm)	1	2	3	4	5	6	7	8
横(cm)	8	7	6	5	4	3	2	1
面積(cm <sup>2</sup> )	8	14	18	20	20	18	14	8

▶縦の長さ 3 cmと、横の長さ 6 cm

▶縦の長さ 6 cmと、横の長さ 3 cm

③完成

## iPad・メールの活用について

### 【iPad】

- ◎1台でさまざまなお子様の読み書きの苦手さに対応することが出来る
- ◎他者に頼ることなく、1人で取り組むことが出来る
- ◎モチベーションが上がり、意欲的に取り組むことが出来る

### 【メール】

- ◎何度も見返し、確認することが出来る
- ◎集団の中でも、個別でのコミュニケーションをとることが出来る
- ◎他者の意見に左右されず、自分の思いを伝えることが出来る

## 指導の目的

文字を読むことが苦手>読み上げ機能を活用する  
文字を書くことが苦手>音声入力・キーボード入力を活用する  
忘れ物が多い・見直しを持った行動が苦手>確認することを習慣化する

### ◎マネジメントスキルを高める

自分の苦手なことへの対処方法を学び・身に着ける

### ◎ソーシャルスキルの獲得

学校や家庭を想定し、他者との関わり方を学ぶ

課題に取り組む中で、「わかりません」と  
挙手して他者に援助を求める  
写真を撮らせてもらう際に、「写真撮って  
もいいですか」と確認する  
何をするか分からない場合に、他児の様  
子を見て真似をする

### ◎ピアサポート

仲間から刺激を受け、自分の行動を振り返り、自己認識を高める

## 保護者の意見

「子供が自分で考えながら取り組む様子が見られて、とても嬉しい。また、知る・学ぶ・考えることが出来るため、子供だけではなく保護者も勉強になります。」

「読み書きの苦手さに対して、iPadの具体的な活用方法が分かる。振り返るためのプリントももらえるため助かる。」

## 今後の課題

### 平谷クリニック



学校



家庭



## お問い合わせ

### 支援機器グループ

hiratani.ipad@gmail.com